

News

横浜市歴史博物館
YOKOHAMA HISTORY MUSEUM NEWS

2019.1
No. 46

速報

日本最古級のキリシタン信仰画
「バ」聖体の連禱と黙想の図」の展示

[館長コラム vol.5] 館長が行く!横歴探訪

上矢部町富士山古墳の盾持人埴輪の原像を求めて

展覧会「寄木細工Art & History」
金子先生インタビュー

EXHIBITION これからの催しもの

企画展

横浜の野を駆ける - 古代東国の馬と牧
平成31年1月30日(水)～3月21日(木・祝)

関連イベント

・シンポジウム

「古代国家をささえた馬たち(仮)」

3月17日(日)13:30～16:00

講師:末崎真澄氏(公益財団法人馬事文化財団参与)

山口英男氏(東京大学史料編纂所教授)

コメンテーター:河野保博氏(京都造形芸術大学・

産業能率大学兼任講師)

司会:鈴木靖民(当館館長)

事前申込(3月6日必着)

・学芸員による研究講座「馬三題」

第1回

2月16日(土)「ユーラシア草原地域の初期騎馬遊牧民の文化(仮)」

講師:畠山禎(横浜ユーラシア文化館学芸員)

第2回

3月3日(日)「古代日本の宮廷儀礼と馬(仮)」

講師:柳沼千枝(当館学芸員)

第3回

3月10日(日)「近代・薄れゆく馬の記憶(仮)」

講師:羽毛田智幸(当館学芸員)

14:00～15:30 当日受付

・フロアレクチャー

2月9日(土)、3月9日(土)、3月21日(木祝)

各日11:00～14:00 当日受付

・特別企画 ポニーと触れあおう!

2月10日(日)11:30～12:00、13:30～14:00 当日受付

君も今日から考古学者 - 横浜発掘物語2019

4月6日(土)～6月2日(日)

戦国争乱(仮)

6月15日(土)～7月31日(水)

常設展示室ミニ展示

新収蔵資料ミニ展示(仮)

4月6日(土)～6月2日(日)

*日程・内容は都合により変更になる場合があります。
詳細はHP等でご確認ください。

お知らせ

2019年8月1日(木)～2020年3月31日(火)予定

改修工事とともない上記期間、休館いたします。
詳細は決まり次第、ホームページ等でお知らせいたします。

横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

○開館時間

9:00～17:00(ただし券売は16:30まで)

大塚遺跡を除く公園部分は24時間オープン

○休館日

月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始 そのほか展示替えなどのため、臨時に休館することがあります。

○常設展観覧料

区分	個人	団体(20人以上、1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	100円	80円

■特別展・企画展の観覧料は別に定めます。

■毎週土曜日は、小・中・高校生は無料です。

■横浜市内在住の65歳以上の方は無料です。「濱ともカード」など証明できるものをご提示ください。

■「身体障害者手帳」「愛の手帳(療育手帳)」「精神障害者保健福祉手帳」をお持ちの方と介護者は無料です。入館の際に手帳をご提示ください。

■補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)とご一緒に入館できます。

○交通

横浜市営地下鉄「センター北駅」下車、1番出口から徒歩5分
(「センター北駅」へは横浜駅から23分、新横浜駅から12分)

・駐車場あり(1時間200円)



[URL] <https://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>

[twitter] @yokorekihaku

Mosaic Wood-work 寄木細工 Art&History 金子先生インタビュー



金子皓彦先生 / 刈田均(担当学芸員)

聞き手
羽毛田智幸(横浜市歴史博物館) / 久保暢子(横浜市歴史博物館)

羽毛田 展示会が無事に終了しました。今回は「アート&ヒストリー」という切り口で、寄木細工ではこれまであまり紹介されていなかった部分を展示した内容でしたが、いかがでしたか？

金子 今まで寄木細工は民芸品という視点で見られていたんです。私はかねがねその一部はそれを遙かに超えたレベルの高い美術工芸品として認識すべきだと思っていました。そこへアート&ヒストリーというテーマをいただいたので、今までと違う視点で寄木細工を評価する良い機会だな、と思って今回の企画に賛同したんです。

刈田 ありがとうございます。

金子 見に来てくれた知り合いからも、「寄木細工見直したよ」「あんなにすごいのがあったのか！」という話を聞いています。それから今回展示した、静岡で作られた飾棚ですが、この展示会の終わる際に、たばこと塩の博物館でウィーン万博展というのが始まったのですが、なんと、ウィーンから借りてきた万博の写真にこの飾棚が写っていたんですよ。

羽毛田 びっくりしましたね！

金子 びっくりしましたよ。その写真で見ると、この棚の上の筆返しの外に出た部分にタッセル(房飾)が吊り下がっているんです。私の飾棚にはもともとそれが付いてなかったから、その頃に作られた別のものかと思っていたんです。ところが、改めて下から覗いたら、ちゃんとそのタッセルを付けたであろう穴があいていたんですよ。だとすると、こういうものはそうた



ウィーン万博に出品されたと考えられる飾棚

くさん作るものではないし、これはまさに展示した自体じゃないかな、と今は考えています。

羽毛田 ウィーン万博に出品された飾棚である可能性が非常に高いということですね。

金子 万博が終わってから西欧のどこかのお城や館の中に備えられ、そこが片付けられ、まわりまわってイギリスのオークションで私の目に飛び込んできたものなんです。しかも、万博の記録を読むと、明治四年(一八七二)に開催計画を立てて六年(一八七三)に実現しているんです。その頃、静岡に山本安兵衛という問屋

がいて、静岡の産物を内国勸業博覧会をはじめ、こういう展示会にたくさん出品しているんですよ。

久保 そういふ方がいらっしやったんですね。

金子 これ以降、シカゴをはじめ諸外国の万博に安兵衛は出品して毎回賞状をもらっている。出品目録からわかるんです。彼が出品者であることや、当時のオーストリアの貨幣価値で値段も出ている。日本側の記録の調査を進めれば、いろんな意味での寄木細工の評価ができる一つの物差しになると思います。明治六年に作ったといえ、江戸の技術がそのまま用いられて作られているのと同じですから、江戸の職人の凄さがわかりますね。

羽毛田 この話にはただ驚くしかなかったんですが、**金子** この飾棚は前から評価が高かったんですよ。展示会をしてみると思わぬそういう発見があって、評価が再

認識されます。コレクションの中には骨董市でも評価や値段が付かないようなものもあるんです。しかし、そうしたもので大事な資料だと思っただけの数が多いんです。寄木細工の歴史を編年していく時に、この飾棚はなくてはならないし、評価のできないものもあってこそ寄木細工がどう移り変わったかわかるんです。

羽毛田 展示の切り口が変わることで新しい情報が集まってくるんですね。

金子 静岡で寄木を作っていたこと自体、静岡の人が全く知らないんです。以前に静岡で展示会をした時に、私の講演で、静岡の木工協会の方から「よく調べてくれたな、初めて聞いたよ」という人があれば、「さっき、話していた何某っていうのはオレの爺さんだよ。どこでわかったんだい？」っていう方もいて、その中に先ほどの山本安兵衛の末裔の方もいたんですよ！

刈田 そうなんですか！

金子 「私の先祖は山本安兵衛と申しまして、昔、寄木細工の大きな問屋をしていました。そして外国にも輸出してました。」という人がいたんです。静岡は昭和五年(一九四〇)の大火で街の大半を焼き、二〇年(一九四五)には戦災で九割を焼いて寄木細工の技術が絶えてしまった。安兵衛も大火で再起不能となり木工には携わらずにいたんですが、子孫の方が「これは内国勸業博覧会に出品し受賞した記念のメダルなんですけど、火災にあって黒い銅さびの塊です」と見せて下さった。

刈田 へえー。

金子 奇跡的な出会いですね。その飾棚をはじめ、静岡では江戸時代から大名や豪商が好むようなものをたくさん作っていた。そういう歴史を多くの方に知って頂けたと思います。紀州徳川家は大名行列などで江戸

に上がる時に注文して、帰りにそれを買ったり、半年一年遅れで紀州に届けてもらったり。静岡は船に乗せると紀州にもどこでも持って行けますから。それと東海道、良いものがどんだん全国へ送られた。産地がそうした痕跡を残さなくなっていますが、紐解いていくと面白いですよ。その後明治二年(一八八九)に東海道線が通りますでしよ？そうすると、街道を通る人が少なくなってしまう。寄木のお店に立ち寄る人も減って、追い打ちをかけるように火災と戦災があり、静岡の寄木は影を失ってしまっただけで、残念ですよ。

羽毛田 今は全く作っていない？

金子 ゼロです。今回展示して頂いた西野木工所がまさに最後でした。この方との出会いも奇跡的ですよ。佐野美術館での展示会の講演で、「静岡の寄木の古いものを調べたくても、残っていないですよ」と言ったら、「いや、そういうけどね、私の家に有るんだよ」と手を手を挙げられた。その方が西野さんで、すぐに静岡のお宅を訪ねたんです。敷地の中に住まいと工房がありまして、よくよく聞いたら大火の前年、昭和十四年(一九三九)に静岡の中心部から郊外へ移ってきたそうで、大火では家の前の路地まで焼けてお宅は焼けなかった。だから代々の工場と中身、道具、素材、みんな残っていた。戦災でも家の前の道路まで焼けてこのお宅は焼けないで残ったの。

刈田 へえー。

金子 平成一三年に家を建てるために工場を壊すから、欲しいものを持って行つてと言われて、鋸、鉋、鑿、その他寄木をつくった道具を全部頂いた。壁に貼って



初代、西野木工所、西野長吉氏が製作した入子碗蓋



ある「火の用心」の貼札、その上にある神棚、作りかけの寄木細工、突き板、そのまの素材も余さず頂いて保管しています。先代が作った重箱やお盆その他色々ありまして、私に下さったものを今回展示させて頂いたのですが、静岡で作った唯一職人のわかるものがこの西野木工所の寄木なんです。

羽毛田 静岡の寄木も押さえて、輸出先のものも集められていて、今回は横浜を通じて海外へ行っているものがあることを、横浜の人にも知ってもらえたとと思うんですけど？

金子 仰る通りですよ。静岡で作ったものが清水港へ運ばれ、一度横浜港へ来ます。横浜港が開いてからは箱根の寄木も、薩摩焼も伊万里焼もお茶もシルクも、横浜から外国へいったわけですよ。静岡で作った寄木細工と横浜は、切っても切れない縁の深いものですよ。また、寄木細工の中には輸出されたものが極めてたくさんあるんです。輸出品は外国の暮らしにあった大きさ、用途、形だったわけですよ。例えばライティンギングビュロー、展示しましたよね？

刈田 ええ、入口のところに展示させていた

だきました。**金子** 日本は江戸時代から商店の帳場机、寺子屋の文机のようなものしか使っていないでしょ？だから日本人はそれを全く知らないわけです。横浜港近くの外国商館が箱根で注文したと思うんだけど、設計図が写真をしながら作って、できたものは全部輸出して日本に残ってなかったんです。だから寄木細工を一万・二万集めても、ライティンギングビュローのような私も初めて見るものがある。そういうことをイギリスの骨董屋

さんで学んだのです。

羽毛田 先生にとって「集める」という行動を通して、色々な物事を見ようとしている部分もあるし、学びにも繋がっているんですね。

金子 もう、病気ですよ。あの世に行くまで治らない。どうせ治らないなら一〇〇歳までは集めるぞ、一二〇歳まで整理するぞ、という目標を持って終わりが無い旅を続けています(笑)。シーボルトじゃないですけど、私も一〇〇年、一五〇年後の評価を期待して今集めていますね。

羽毛田 終わりのない旅ですか(笑)

金子 私、考古学をやってきたんです。土器や石器と同じように、寄木細工にも江戸、明治、大正、昭和、昭和も戦前、戦中、戦後と編年がある。ちょっと違う材料が使われているな、この文様は見たことないな、これは箱根・静岡以外だな、大名の注文で特別に作ったのかな、と見えるわけです。骨董屋さんがくれるおまけの中にも、この文様見たことないな、この用途は今まで知らないぞ、という新発見があります。それで、編年がより緻密になる。今は誰に質問されても自信を持って答えられますし、自信を持って「これを飾りましょう、こういう順序で飾りましょう」と展示会の助言もできるようになりましたね。

羽毛田 寄木以外にも多くのコレクションを集めていると伺うのですが、そうすると各コレクションごとに編年が先生の頭の中にできているのですか。

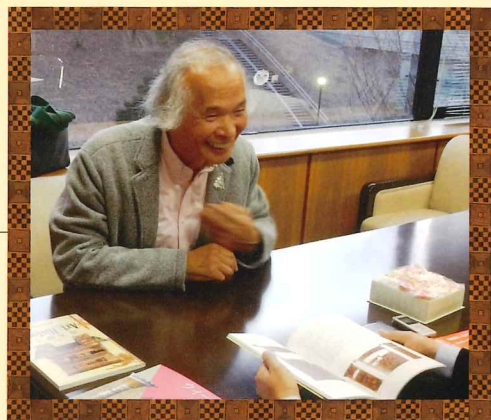
金子 全部できています。例えばロンドンの骨董屋さんで寄木細工のライティングビュローが売っていると、その隣に薩摩焼さらに隣に芝山細工もあるんです。よく考えてみるとこれらはみんな同じ船で横浜から来て、めぐりめぐって、それがセットで売りに出ているんじゃないか？そうとは限らなくても、同じ時代のも

のかな？となると、全部まとめて買おうのです。セットだから安くなるし、何でも集まりました(笑)。それらを同時に並べると見えてくるものが多々ありますね。イギリスのお宅では、暖炉があつてその上には伊万里焼、薩摩焼、その脇にライティングビュロー、間仕切りのように芝山細工、テーブルの上には横浜で焼いたコーヒークップやお茶のポットがあるわけです。ある一部分だけをチョイスするのではなく、トータルに見ると各々の位置付けが分かるし、生活風俗史的な視点からそうすべきだろうとね。だから、割れやヒビがあつても、一つの時代の背景がわかる資料として集めています。

羽毛田 同時代とか同じ背景を持つているものをまとめて集めているというののポイントなんですね。

金子 かつて私がロンドンに行くと、高い値段がついて店頭で寄木細工が並んだんです。私が帰ると値段が下がる。そうロンドンの友人が教えてくれました(笑)。私がイギリスの地方に行かなくても骨董屋さんが集めて店頭で置いてくれる。今まで私に売ったことがないものを田舎から仕入れてきてくれるので、有難いですよ。だからあれだけバラエティある寄木細工が集まった。今はもうほとんど店頭に並ばない。あつても高いし私は買えない。そのぐらいにこれまで集めてきた。

羽毛田 先生が集めたことで評価が高まり、そういう値段が付けられてきたのですか。



久保 それに骨董屋さんとの信頼関係ですね。

金子 買い方上手、集め方上手だったなって思っています。私以外誰も買わないということに自信を持っていますから、絶対高く買いませんでした(笑)。

久保 一番価値を認めてくれる人だからこそ値段や対応なんですね。

金子 ロンドンの有名なオークションの会社の人もたばこ塩の博物館での展示会を見て驚いていましたよ。産地や編年を踏まえて整然と並び、美術工芸の展示会に仕立て上がっているのを見て、彼らも「協力してよかった、またこれからも協力するぞ」と言い置いて帰りました。

久保 そうなんですな！

羽毛田 編年で歴史的な背景を押さえ、資料として位置づけるといふ点がこの展示で私達が学んだことですし、また骨董市は楽しいですよ。勉強にもなりますし。

金子 骨董市は何でも手に取れるじゃないですか？物とか道具というのには重さだとか肌触りだとか、それこそ裏側も見たいけど、博物館じゃ触れない！骨董市に行くとなんか全部でいいし、お金出せば買える。良し悪しは別として骨董市にはその魅力があるし、面白いところですよ。だから私は欠かさず歩いていく。博物館と同じで行くたびに発見があります。

羽毛田 先日、次は下駄の展示会を、というようなお話もありましたけれども……

金子 下駄は面白いですよ！やりましょうよ、寄木と同じで、下駄が今一五〇〇足位集まりました。

羽毛田 国内も海外も含めてですか？

金子 国内がほとんど。地域性と時代性。雪が歯に挟まらないような雪国の下駄に始まって、孟宗竹を割って鼻緒をつけただけのものや、鋸と鉋で簡単に手元の材料で作ったような下駄もある。板場で使う下駄、船の上で使う下駄、漁師さんが浜で履く下駄とか、男女や子供から年寄りまでみんな違う。一つ一つ観察するとこんなに奥深いのか、と思ひその背景をまた調べる。

羽毛田 横浜の人にもそうした地域の人たちと履物との結びつきを知ってもらえるといいですね。

金子 かつては小さな村だった下駄屋は一軒か二軒あつたし、横浜だって同じようにあつたんです。それが今はゼロに等しいんじゃないですか？

金子 僕はよく坂崎幸之助さんと展示会を実現するんですが、彼が「下駄はどーも、第一場所とるし汚いからダメだよ」って言うので、最終的に住み分けを決めたんです。私は実物を、彼は紙ものを集める。彼は下駄屋の引札や浮世絵、下駄が写っている古いどこかの家の写真集やバラの写真を集めてくれるんです。横浜写真の中にも下駄や草鞋が写った写真がありますし、記録にとどめたり、実物を残したり集めるというのは楽しいですね。ところで横浜市内に下駄の出土品はないですか？



刈田 下駄の出土品はないですね。

金子 小田原城なんかは随分出ているんですよ。江戸市中もたくさん出ていますね。横浜市内で出ていけば、それを起点に下駄の変遷を追って展示会ができますよな。

刈田 東海道の宿場であつたのができれば良いんでしょうけれど。発掘されていないのですよ。

羽毛田 出てこなくても履いていたことは間違いないですよな。

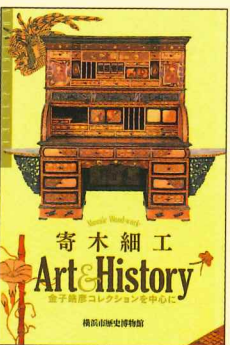
金子 寄木細工から輸出工芸のコレクションに広がりましたし、周辺にあるもの全部を見ると寄木細工が浮き彫りになって面白い。というわけで今二十三種類を同時に集めています。

久保 二十三種類はすごいですね！

金子 全部展示会できるんじゃないかな？貝細工に象嵌、横浜彫、芝山細工、一つのをきつかけにしてどんだん広がった。今度、文久時代のものばかりを集めて展示会をするんですが、今からもう二〇年近く前、東郷神

社の骨董市で江戸の日記を買ったんです。文久時代の三年間、日本橋の界隈に住んだ桑名藩の藩士の日記です。毎日、銀座・日本橋から浅草、ときには芝の辺りに散歩して、見て聞いて食べて、そのことだけ書いてある。ほんとうに面白い日記、それがきっかけです。**久保** すごく日記ですねえ。何している人なんですかね、お侍さんなんですよな？

◆展示会図録
「寄木細工 Art&History -
金子皓彦コレクションを中心に」
編：横浜市歴史博物館・
B5変形判64頁
オールカラー
1080円(税込)



速報
Prompt report

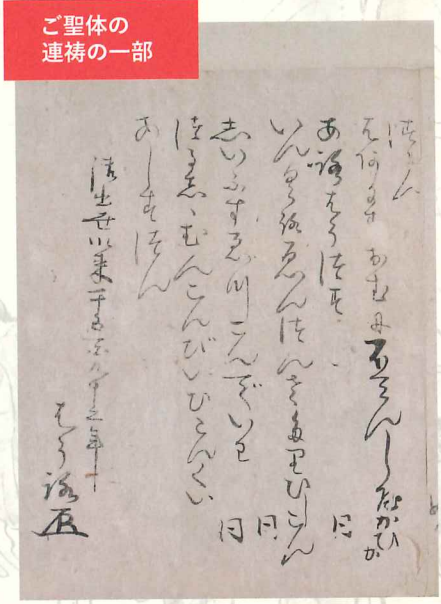
日本最古級のキリシタン信仰画

『ご聖体の連禱と黙想の図』の展示

黙想の図

企画展「神奈川の記憶―歴史を見つめる新聞記者の視点」(会期：二〇一八年十一月二三日―二〇一九年一月四日)に「ご聖体の連禱と黙想の図」を展示しました。この資料は、神奈川県大磯町の澤田美喜記念館が所蔵するキリシタンの信仰画です。和紙に墨で描かれ、マリアとキリストの生涯を伝える一五の場面と、ラテン語の祈りの言葉が仮名文字で記され、一五九二年との銘があります。仮名文字は、ミサで用いる「聖体パン」をたたえる聖体秘跡の連禱であり、文字の書体には室町末・安土桃山期の特徴が見られます。絵はイエスとマリアの生涯を思いながら黙想するためのものと考えられ、放射性炭素を用いた紙の年代測定では、一五五六―一六三三年に作られたものとの結果が出ています。

日本的な作風であり、キリスト教が広まったとされる当時の信仰の姿を具体的に伝える類例のない資料と見られます。押印(サイン)の分析から作者「はうる(パウロ)」の人物像の検討も行われるなど、今後の研究が期待されます。(井上 攻)



ご聖体の連禱の一部



黙想の図の一部

企画展
「横浜の野を駆ける―古代東国の馬と牧」

今や、瀬谷や戸塚で牛を育てる牧場が数軒あるのみの横浜市ですが、かつては馬を生産していた牧場があったという内容を紹介する次の企画展担当者に直撃して、話を聞いてみました！

Q かつて横浜に馬の牧場があった！という話を聞いたのですが、

担当者 ええ、平安時代の話ですが…。だいぶ昔の話になりますけど。

Q どんな馬を育てていたのですか？

担当者 りんご(りんご)律令国家ができた頃、軍用や通信・連絡手段として馬が必要だったんですね。それで各地に馬を生産する牧場が作られたんですよ。そこで生産された馬は軍馬や早馬として利用されたり、みやこへ送られたりしたんです。

Q 横浜との関係は？どこにあったのですか？

担当者 天皇が政治をおこなったところを朝廷というのですが、朝廷が直接管理していた牧場を「勅使牧」といいます。武蔵国の中には6箇所の勅使牧があつて、今の横浜地域には石川と立野の牧があつたとされていますが、残念ながら詳しい場所はわかっていません。

Q もともと横浜に馬がいたのでしょうか？

担当者 古墳時代の中頃、馬は大陸から朝鮮半島を通じて日本にやってきたのです。当時の馬はサラブレッドというよりは、木曾馬などの在来種とよばれる馬たちに近い体型です。渡来系の遺物が発掘されている多摩の馬飼(うまかい)集団の資料も紹介しますよ。

Q 展示会では馬は展示されませんか？

担当者 ホンモノの馬は展示室には入りませんが(笑)、馬の博物館さんからお借りした模型を「御馬、みやこへゆく」のコーナーに展示しますよ。みやこに献上されて朝廷の馬となった晴れ姿を復元したところが見どころです。

Q 他にはどのようなモノが展示されるのですか？

担当者 いろんなものが並びますよ(笑)遺跡から見つかった馬の骨(こ)から鞍や鎧といった馬具、装飾品はもちろん、カワイイ馬のハニワ、それからみやこの馬を使った儀式を描いた絵巻や伝説の名馬の戦いを描いた屏風まで、バラエティに富みます。源平合戦で活躍した名馬生喰は、今の港北区で死んだという伝説もあるんですよ。

移鞍装着模型(馬の博物館蔵)

ご聖体の連禱と黙想の図(澤田美喜記念館蔵)

筒形土偶、 沖縄へ。

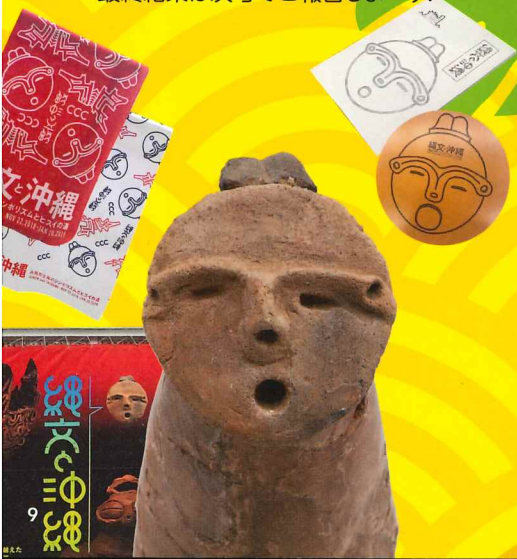
ハイサーイ！ 常設展・原始Ⅰの人
気者、原出口遺跡出土の筒形土偶
でーす！ 沖縄県立博物館にて開催中
の特別展「縄文と沖縄」に来てるよ。



立ケースを独り占め！
歴博でも、これくらいしてくれないかな？

横浜からは、土偶や土器、石器など
合計45点もの仲間たちが一緒なん
だ。新潟県笹山遺跡の国宝・火焰
型土器先輩とか、全国からすごいメ
ンバーが集まってるけど…ぼくも
ポスターに起用されたし、グッズも
販売されてるんだ！ 人気投票にも
参加してるから、がんばるぞー！

※途中経過はなんと3位！（12月15日時点）
最終結果は次号でご報告しまーす！



Twitterアカウント https://twitter.com/rekihaku_farm
横浜市歴史博物館レキハクファーム通信で日々の作業の様子をお伝えしています。

畑で稲作

レキハクファーム通信

横浜市歴史博物館は、このたび「畑」をはじめました。

GOAL!

10/26



種を播いてから4ヶ月、
ようやく迎えた収穫です。

10/1



もうちょっとで刈り取りの
ところで台風24号が
やってきた。

9/18



実が入ってきたのかな？
穂がたれてきたぞ。

9/12



ようやく
穂が出たー！(^^)!

公式アカウントで
日々の様子をチェック!!



8/28



2ヶ月近くでこんなに伸びました。
お米らしくなってきた。

8/9



畑に肥料を追加！
残念ながら育たなかった
株も(;;)

7/30



夏の青空の下、
1ヶ月ですくすく育った
農林24号。

7/17



夏場は陸稲も雑草も良く育ちます。
山盛りの雑草がとれました(^^)!

7/2



やっと芽がでたー！
がんばれ農林24号!

6/21



いよいよ種まきです。
播いた陸稲は
「農林24号」です。

6/14



まずは畑を起こすところから。
一番大事な土づくり。

6/12



レキハクファームスタート!
看板を設置しました。

「なぜ、いま畑なのか？」

博物館では数年来、屋上や博物館裏のちょっとしたスペースで、小さなコンテナを
使って田んぼを作ってきました。「水の中でお米を育てる」といえば今では当たり
前ですが、かつては「畑で育てるお米」も港北ニュータウン地域ではさかんに栽培
されていた。そう、その「陸稲（おかぼ）」を育ててみたいということでスター
トしたのがこの企画です。舞台は緑区に借りた市民農園のシェア畑、ここを「レキ
ハクファーム」と名付け耕作がはじまりました。

古いのはなしになりますが、明治三六年（一九〇三）に発行された『神奈川県都筑
群中川村々是調査書』という港北ニュータウン地域（旧中川村）のくらしを伝える
報告書をひも解くと、水稲と陸稲の栽培面積や価格を知ることができます。
作付面積はおよそ一五四町・三二町、単価は水稲のうるち米一・七二六円に対
して陸稲のうるち米が一・三六六円と、農業生産品としての価値も水稲と遜色
がなかったことがわかります。

しかし、こうしたかつての記録から栽培面積や生産量、価格などはわかって、も
わからないことがあります。それは育て方やかかる手間、そして味です。もちろ
ん当時と同じ品種ではありませんが、全て手作業の土作り、暑い夏の草取り、台
風や自然の猛威から稲を守る、そんな陸稲づくりのひととひとつの場面を経験す
ることで、より深くたしかかな情報をとどけることができると考えています。

種まきの遅れから台風二四号の被害と、およそ順調ではなかったレキハクファ
ームですが、それでもなんとか実りの秋を迎え、およそ五〇株ほどの陸稲を収穫す
ることができました。収穫したお米は、味の確認はもちろん、博物館のイベン
トや来年の種籾として使っていきます。レキハクファームが陸稲を育てている間、シ
ェア畑を見渡してみると、トマトやキュウリ、ナス、ピーマンといった色とりどりの
夏野菜が実っていました。どんな野菜をいつ育てるか、季節や自然と共に農業が
あることを実感した四ヶ月間でした。（羽毛田智幸）

レキハク
ファーム

2018
6/2-7/16

「小机城の発掘調査」展



「小机城の発掘調査」展示解説の様子

港北区小机町にある小机城は戦国時代の城郭として知られます。昭和39年(1964)、10月の東京オリンピックに向けて都市開発が進む中、小机城址は一部が第三京浜国道の道路用地にかかり、学習院大学輔仁会史学部による緊急の発掘調査が行われました。本ミニ展示は、この発掘調査の成果の一部をはじめて展示したもので、また展示準備の中で当時史学部の顧問であった奥田直栄氏のコレクションに発掘調査時の写真が含まれていることも判明しました(コレクションは新潟県立歴史博物館蔵)。

調査は同年10月と11月、翌年5月の3次にわたり、発見された遺物153袋521点は2017年度に当館に寄贈されていますが、学習院大学による調査は城址のごく一部であり、今後さらなる調査が期待されます。(阿諏訪 青美)

2018
7/21-9/2

「印融法印関係資料」展 / 印融法印パネル展



パフォーマンスを終えて展示を見学する駕牛会僧侶の皆さん

印融法印は戦国時代に横浜市域を中心に南関東各地の真言宗寺院を復興した名僧で、永正16年(1519)8月15日に入寂して、2018年は500回忌にあたります。これを記念して当館では記念講演会とともに本ミニ展示およびパネル展を開催しました。

展示資料は江戸時代の版本の他、特別展示として横浜市指定文化財「宝生寺印信集(南区・宝生寺蔵)」と新出の「印融法印書状」(個人蔵)を出展しています。7月21日(日)の記念講演会では、印融法印の法灯を継ぐ市内31ヶ寺で構成する「駕牛会」僧侶によるパフォーマンスも盛大に行われました。

印融法印に関する資料は、自ら書写した聖教類を除いてほとんど残されていません。当時の政治や宗教界の動向とからめた、さらなる研究が必要です。(阿諏訪 青美)

あの学芸員は、いま

第2回



小倉淳一さん(法政大学文学部教授)
在職期間：一九九八年二月～二〇〇四年三月

「あの学芸員(ひと)はいま」、第二回は歴博の二代目考古学担当学芸員である小倉淳一先生です。小倉先生は、一九九八年秋から五年半博物館に勤務されました。二〇〇四年に博物館を退職、母校である法政大学にて教鞭をとっておられます。

Q 大学でのお仕事はどんな感じですか？

今年は教授会主任という役職についていて、これは要するに町内会の副会長みたいなもの。教授会の司会をしたり、いろんな会議に出たり、学部に関するさまざまな事務を学部長の下でさばっていくんだけど、毎日バタバタですね。

Q 小倉先生がいられしたころの博物館の雰囲気は？

とても若い職場でしたね。入ったときは僕が三三歳だったんだけど、同世代とちょっと上の人たちが中心でした。

Q 担当された企画展は、どんな内容だったんですか？

「発見！巨大集落」は、大熊仲町遺跡の報告書が出るからそれに合わせた展示をやるということで、青森から福島、長野、新潟にも借用に行きました。「甕の大環濠集落」は、大阪の弥生博と佐賀県博との三館巡回なんだけど、基本的な資料は同じでもご当地のものをほめ込んで充実させようということになりました。「たのしい考古学」は、考古学をやさしくしようという企画で、横浜の考古学のことをもっていろんな人に知ってもらいたい、特に子どもたちに伝えたいという思いがありました。

Q 展示関連で印象に残っていることは？

「甕の大環濠集落」の時に、お母さんと一緒に来ていた小学生が、「想像以上だ」と言ってくれた。展示室の片隅でたまたまそれを耳にして、ああよかったな。あと「たのしい考古学」は堅穴住居の原寸大模型を作ったりして、手作りの展示で一番楽しかったな。

Q 展示以外はどうですか？

やはり収蔵品の管理にはすごく気を使いました。あと当時は普及振

興係と学芸係があつて、僕は学芸係にいたけれども、仕事の半分くらいは普及に足をつこんでたんじゃなかったかな。考古のイベントの時はいいわけにいかないし。

Q 土器づくり教室では、まだ小倉先生の写っているビデオを見せてますよ。えっ、そうなの？横浜縄文土器づくりの会の人たちにも、本当によくしていたんだという思いしなくて、あまり恩を返せなかったような気がして申し訳ないですね。その時に撮った写真などを、まだ学校で教材に使っています。勝手に(笑)

Q お互いさまということで(笑) 博物館でやっていたことが今の仕事に活かされていると思うことは？

それはもちろん、モノに関して教えているわけですから、毎日博物館の経験が生きています。

Q 小倉先生は今もよく展示を見にいらしてますよね。

本当は展覧会のたびに行きたいんだけど。行くとそれは刺激になりますよね。こういう風に見せてるんだとか、こういう切り口があるんだとか。

Q 横浜市歴史博物館へのメッセージはありますか？

難しいなあ。博物館に来る人へのメッセージでもいいですか？歴史を総覧する場所としては、横浜では一番の場所だと思いますから、いろんな資料を上手に見せてくれる学芸員の仕事を楽しんでいただきたいと思います。



(写真右)
「考古学者認定証」
2000年5月、関西ミュージアムメッセ2000にて。
(写真上)
近影(市ヶ谷キャンパス小倉研究室前にて、2018年11月)
(写真下)
小倉ゼミの風景
この日は骨角器の製作に関する論文講読が行われていました。

↓ 担当した主な展示

特別展
「発見！巨大集落—大熊仲町遺跡と縄文中期の世界」
2000年10月7日～11月26日
大塚・歳勝土遺跡公園開園5周年記念特別展
「甕の大環濠集落—吉野ヶ里から大塚まで」
2001年7月20日～9月2日
企画展「たのしい考古学」
2002年7月27日～9月16日



上矢部町富士山古墳の 盾持人埴輪の原像を求めて

文 鈴木靖民

歴史博物館の二階の廊下に盾を持つ人物埴輪のレプリカが立っています。盾持人の本物は常設展示室に朝顔形、馬形、鳥形とともに並び、横浜市の指定文化財です。この戸塚区の上矢部町富士山古墳で出土した埴輪は、今、博物館で朝日新聞文化財団の助成を受けて整理が続いています。

昨年（二〇一八年）一〇月、好天の日、私は二七年前の調査概報を持って富士山古墳を訪れました。古墳は横浜新道の上矢部インターの近く、山号を富士山という正福寺の西隣の丘の頂部にありました。竹や木々が茂る丘の上は私有地で、金網のフェンスがめぐらされていました。周りにはマンションや住宅が迫っていて、私は途中で不動産屋と間違われました。古墳のある丘は付近で最も高く、見晴らしのよい立地です。

富士山古墳は六世紀中ごろの約二

五メートルの円墳です。今ある四体の盾持人は盾の上部に頭を表現する半身像で、頭に笠帽形やラッパ形の頭巾を被り、顔の表情、盾面の表現に違いがあります。馬形埴輪の特徴などから茨城や上総の例に似るとされます。まだ籠手を巻いたり、琴を弾いたりする人物かと思われる断片なども残るようです。

埴輪は容器を載せる器台形から円筒形、朝顔形に変わり、四世紀末には家、武器などの器財形ができ、ついで人物、動物が出現するのが全体の流れです。人物埴輪は死者を邪悪から守るなどを目的にして墳丘の堤や造出に立て、儀礼や祭祀の場面を表すとされます。五世紀末の群馬県高崎市の保渡田八幡塚古墳などは、男性（首長）、女性、各種の武人、盾持人そのほかを多数並べて、被葬者の生前の生活を再現したといわれま

私が館長の
鈴木です。

す。関東では大型墳墓にのみ並んだ埴輪が六世紀には小さな群集墳にも立てられます。富士山古墳でも象徴的な埴輪を選んで並べたのでしょう。

盾持人の埴輪は関東に多く、福島県から熊本県まで分布し、百体以上を数えます。埴輪に詳しい稲村繁さんは盾持人には三つの系統があると考えておられます。①五世紀中ごろ、倭王のもと中国北朝、直接には高句麗の出行などの儀礼を描いた墳墓壁画の影響を受けて多数の人物埴輪を立てることが河内の古墳で始まり、このなかに軽装の盾持武人（しょうけりむけ）がいる。②また四世紀末に盾上部に衝角付

式と習俗の考古学」、設楽博己さん（『弥生時代人物造形品の研究』）、小林青樹さん（『倭人の祭祀考古学』）などに受け継がれています。



平安時代の
方相氏（『政事要略』
[新訂]増補国史大系
吉川弘文館）

が付く、つまり奈良県の三輪山の麓の茅原大墓の例のように盾形埴輪をベースにして擬人化した形が造られ、保渡田八幡塚の盾付冑を着けた盾持人の例へと続く。③さらに三世紀、奈良県纏向遺跡の木製の仮面、弥生時代の土器や銅鐸の絵画の盾と武器を持つ人につながるような大耳の仮面を着けた盾持人の系譜がある。六世紀に入ると、三種が形骸化し混在してしまうとされます。盾持人は埴輪列の端などに単独で立ち、ほかに比べて頭が大きく顔に装飾がある特異な姿を示して、下級武人の職務を表わすとみるのです（『日本考古学基礎研究』『中日交流の考古学』）。

ところで近年、盾持人は弥生文化の研究者が注目しています。盾持人埴輪が弥生絵画の左手に盾、右手に戈（戟）を持つ人に類似するので、中国、日本の葬礼や祭祀で邪鬼を払う役の方相氏の姿を器物に受け入れたのだらうとされます。二〇〇一年の古墳研究者の塩谷修さんが最初ですが（『日本考古学基礎研究』）、春成秀爾さんが広げ（『儀

方相氏の起源は中国の新石器時代、戦国時代の曾、夏、周などの習俗に求める諸説があります。ジャーナリストの塚本和人さんは、中国東北あたりで周以来の南方文化に北方文化が融合し、紀元前一世紀、弥生中期以降の日本列島に断続的に及ぶなかで、方相氏の多様な祭祀が伝わったとまとめておられますが、朝鮮との関係も考えてよいでしょう。富士山古墳の盾持人埴輪は墓を守護し、首長である被葬者に仕えた武人たちを表すと思われます。今後、埴輪をめぐる議論が続くでしょう。

ら、この埴輪も大事な資料です。

方相氏は飛鳥時代を初見として（矢野建一『日本古代の宗教と社会』）、奈良・平安時代の葬送儀礼や追儺の行事に登場します。これが弥生文化以来の系譜と結びつくかは不明ですが、今の節分の鬼はその変形です。仮面といえば、つい最近、ユネスコの無形文化遺産に登録された秋田男鹿のナマハゲ、沖縄宮古島のパーントゥ等々、各地の異形の来訪神の習俗との類似性も思い浮かびます。仮面、仮装自体の呪的な意味は今も生きているのです。



上矢部町富士山古墳（戸塚区）出土人物埴輪





体験学習室「れきし工房」で オリジナル作品を作ってみよう!



ミュージアムショップでオリジナルキットをお求めいただくと、
博物館2階の体験学習室で、いつでもワークショップが楽しめます!



7月からスタートした体験学習室の「れきし工房」、たくさんのお客さまに楽しんでいただいています。1番人気のまが玉をはじめ、あじろ編みシリーズや大人でも作りごたえのある小田原提灯、10～11月にはまゆ細工でオリジナル作品を作るキャンペーンも開催しました。楽しい企画を今後も続けていきますので、ショップでキットを購入してぜひご参加ください。



まゆキャラキャンペーンのみさんの作品はコチラ

いつもつくれるめづりワークショップ「れきし工房」
「まゆキャラ」づくり
キャンペーン 開催中

10月・11月の開催日
体験学習室の開放時間 10:00～16:30
(休日はホームページでご確認ください)

キャンペーン期間中、博物館1階のミュージアムショップで販売中の「れきし工房」キットをお得な価格で販売いたします。2階の体験学習室に、はきみや接ぎ木などを用意しておりますので、来館記念にオリジナルなキャラクターを作ってください。みなさんの作品はキャンペーン公式Instagramで紹介させていただきます。

「@rekishaku_mayachara」
右のQRコードからまゆキャラキャンペーン公式Instagramをフォローしてください。
キャンペーン期間中は、Instagramアカウントをお持ちでない方もご覧いただけます。

まゆキャラの作りかたは、
300円
キットを1つ購入するだけで
おまかせ!



茅を葺く人

おつか さいかちいせきこうえん
大塚・歳勝土遺跡公園だより
かやぶき屋根プロジェクト2年目

文「茅刈り人」
達
高橋健 羽毛田智幸
橋口豊 斎藤宣政

「かやぶき屋根プロジェクト」は、朝霧高原茅場の茅を刈ることができる「茅刈り人」を育成し、大塚遺跡にある復元竪穴住居の修繕に必要な茅を確保すること、自分たちでできる修繕技術を習得することを目的として、1年間活動してきました(博物館News No45)。

平成30年度の「かやぶき屋根プロジェクト」は「ふるさと文化財の森システム推進事業普及啓発事業」として文化庁と委託契約を結び、活動することとなりました。「朝霧高原茅場」は、文化庁によって「ふるさと文化財の森」設定地とされています。「ふるさと文化財の森」とは、文化財建造物を修理し後世に伝えていくために必要な資材の確保を行う為に文化庁が設定している地域のことです。「かやぶき屋根プロジェクト」は「朝霧高原茅場」の茅を活用するとともに、「ふるさと文化財の森システム」の普及啓発も推進していくこととなりました。

さて、平成30年度はまだ半ばですが、昨年度の活動を踏襲しつつ新たな試みも取り入れています。6月23日(土)に横浜市歴史博物館の入口前スペースにて朝霧高原茅場で刈り取った茅を使い、差し茅用の茅束を作成しました。事前にチラシなどで告知していたこともあり、興味を持った市民の方が数名参加してくれました。

11月18日(日)は「かやぶき屋根プロジェクト」に新たに興味を持っていた人への研修会、11月25日(日)は復元竪穴住居の修繕を講師の先生の指導のもと

行いました。修繕内容はまず「雁木」を使い竪穴住居全体をたたき込むことで浮き上がった茅を安定させます。そして屋根のやせた部分に差し茅をしていくのです。昨年度は講師より事細かに指導を受けながら行いましたが、今回は難しい部分のみ指導をいただく形で進めることができました(まだまだ多くご指導はいただいておりますが...)。ほんの少しかもしれませんが「茅刈り人」たちが茅の扱いに上達していることを実感した瞬間に立ち会うことができました。

この後年度内の研修は、月一回のペースで進める予定です。自分たちでできる修繕をととして、市民の皆さんに大塚・歳勝土遺跡公園を身近に感じていただける機会を多く作れるようにこれからも活動していきますので、よろしくお願いします。



かやぶき屋根プロジェクトは文化庁平成30年度「ふるさと文化財の森システム推進事業普及啓発事業」として実施しています。